

報恩寺だより

平成18年4月17日
綾瀬市寺尾南2-10-1
おたすけ観音 報恩寺
電話 0467-78-7160
FAX 0467-79-1567

大般若祈祷会勤修について

5月17日は、おたすけ観音の縁日です。皆様の家内安全、身体健全、諸災消除、諸縁吉祥を祈り、大般若祈祷会を次により行いますので、お誘い合わせのうえ御参詣くださるよう、ご案内申し上げます。

記

期日 5月17日（水）

日程 午後1時 御詠歌

午後2時 大般若祈祷会

午後3時 小斎

祈祷料（2000円）は、この報恩寺だよりを郵送した封筒にいれ、当日御志納お願い致します。

特別御寄進

次の方々から特別御寄進を頂きました。各位の御芳志に感謝すると共に供養菩提のご冥福をお祈りいたします。

小川寿美子 様 劍持広美 様 武藤和夫 様 馬場秀成 様

橋川 寛 様 早川和雄様 橋川佳司 様 橋川好一 様

滝沢友子 様 重森信一郎 様 高見圭祐 様 市川博昭 様

愛語

小学校2年生の息子が、1年生の時のことですが。母親との会話の中で、少し感情を高ぶらせながら、自分はいつになつたら永平寺に修行に行くのか。という内容のやり取りがありました。私は直接会話には参加していなかったので、その前にどのようなやり取りがあったのかはわかりませんが、母親が「学校を卒業して、大人になってからかな」と優しく答えると息子は「・・・わかった」と強く答え、そのやり取りは終わり、まったく違う話題で盛り上がってきました。

母親に将来の夢とかを問われてその話題になったのではなく、突然言い出したらしいのですが、やはり以前からそのような会話が母親や姉、友人、その他の付き合いの間にあり、息子自身もそれなりのプレッシャーを感じていたのでしょう。

わたしには、その息子の態度が強く心に染み入りました。これは、私にとって愛語であると。

息子本人は何を考えて、何を思いそのようなことを聞いて、何を感じどう「・・・わかった」のかは計り知ることは出来ません。おそらく親が思っているほど、特別な意味はないのでしょうか。その姿が妙に勇ましく、「かっこいいなこいつ」と思ったものです。

直接私に云われたことではないのですが、私を前向きに奮い立たせるに充分な愛語だと。

愛語とは修證義といふお経の中に愛語という言葉があります。

【原文】

愛語といふは、衆生を見るに、まず慈愛の心を發し、顧愛の言語を施すなり、

慈念衆生猶如赤子の懷いを貯えて言語するは愛語なり、

徳あるは讃むべし、徳なきは憐れむべし、

怨敵を降伏し、君子を和睦ならしむること愛語を根本とするなり、

面いて愛語を聞くは面を喜ばしめ、心を楽しくす、面わずして愛語を聞くは肝に銘じ魂に銘ず、

愛語能く廻天の力あることを学すべきなり。

【意訳】

愛語というのは、どんな人に対してもまず慈しみのこころを起こし、思いやりの言葉をかけてあげることです。生きとし生ける者を慈しむという事は、例えば、赤ちゃんを思う母親のように、いつときも念頭から離さずに言葉をかけるのが愛語なのです。

善き行いの人を見ればほめたたえ、さらに精進できるようにしてあげなさい。悪しき行いの人には、非難したり咎めたりせずに憐れみの心で言葉をかけなさい。

自分を恨み憎んでいるような相手であっても、その憎しみを消し去り、あるいは権力者同士を仲直りさせるにも慈愛の言葉を根本とするのです。

面と向かって愛語を聞けば思わず顔がほころび、心を楽しくしてくれるものです。また、人づてに愛語を伝え聞くときには、その言葉は心に響き、感動して忘れられないものです。

愛語には天子の御心をも動かす力があることをよくよく肝に銘じ学ばなくてはなりません。

以前、妻が総持寺の元禅師である板橋老師とお会いできる機会があり、お寺の子どもとしてどのように育てていけばよろしいでしょうか。とお尋ねしたところ板橋老師は「背中を見せなさい」と仰ったそうです。妻にこのようなお言葉を頂いて参りました。といわれ、気さくに禅師さんに聞いてきてしまう度胸のよさにびっくりしたものです。とにかく、せっかくいただいたお言葉これを私の教育方針とさせていただきました。

何しろ「背中を見せる」ですから、細かいことはとやかく申しません。一般常識的な僕は一応しているつもりですが。思うように行かないのが子育て、そんな不安を抱いている背中を後押ししてくれたような気がします。